

佐世保鎮守府造船部船渠  
築造ノ件

決裁済

大臣 次官



廿五年十一月廿五日

主務

土事



校合



沖馬



發行



土月九日



立案者

第二局長



第二課長



第三局長



第三課長



第一課長



訓令案

其府造船部建築工事ハ去年八月官房第一九七  
号ヲ以テ船渠築造方決定相達シ付テハ全件ニ  
伴隨テ設計ヲ要スルニ付東ノ右船渠ノ位置ニ從ヒ水雷  
隊敷設部ヲ除キ詳細ノ計画及内譯豫筆明細

官房第一九七号

五

頁

海軍

取調至急差出ル様取計ノ

但繼續費給拂及名年度豫算類ノ既定ノ向

変更ス(カクナル義ト心得)

明治三十五年十月廿九日

海軍大臣

佐世保鎮守府司令長官宛

決裁濟

大臣

次官



廿五年九月廿六日

主務

主事



淨寫

發付



校合

九月廿六日



立案者

第二局長



第三課長



第三局長



第二課

第三課



電信指令案

造船部工事 船渠ノ外ニ未タ取調中

ニ付著手スベカラス

廿五年九月十五日

海軍大臣

佐世保鎮守府司令長官

官房第二二二号

海軍大臣

1158



第三局

第二局

カイグロセト  
ニレカイグロセト

千ヨシユフ  
ハヤ  
カ  
レ  
イ  
カ

五支

廿一

廿七  
九十九

三  
木

ソイ  
ス又ノ  
子  
テ  
ガ  
フ  
ム

送  
部  
ノ  
エ  
部

...



...

電國通本日大

1159



決裁濟

參謀部

第二課

主事



淨寫



校合

發付

八月廿五日



廿五年六月日

主務

立案者



第二局長

第二課長



大臣 次官



第三局長代

第二課



第一課



訓令案

其府造船部船渠築造方法調査七ノ別紙  
取調書及圖面ノ通決定カ案右ノ依リ工事  
施行スルニ

明治廿五年八月廿五日 海軍大臣

官署

海

軍

佐世保正守封司守正守友

江

宣



佐世保鎮守府船渠計画再調査復命書

佐世保鎮守府所屬ノ船渠計画再調査ノ命ヲ受ケ茲ニ之ヲ調  
査ヲ終リ其結果左ニ復命仕候

御本船渠ノ原計画タルヤ其企圖廣大ニ過キ未タ我海軍ニ於  
テ必要ナキノミナラズ其維持方及艦船入渠ノ事業ニ於テ不  
便不經濟ナルヲ免カレズ而テ船渠ノ全長ヲ折半シ中央ヲ隔  
断レニ復ノ艦船ヲ同時ニ入渠セシムルノ計画ナルモ其一部  
分ノ全長短ニシテ稍ヤ大ナル艦船ヲ入渠セシムルヲ得ス  
葛城ヨリ大ナルヲ得ス(ノ)又全長四百九十呎ニ適スル一艦ヲ入渠  
セシムルトスルモ其長幅喫水ニ比例シ排水量非常ニ重大ナ  
ル艦船ニアラサレハ如此大船渠ヲ要セス是則チ一艦ノ入渠

二對シテハ大ニ過キニ艦同時ノ入渠ニ對シテハ小ニ過キ其  
 方法宜シキヲ得ヌ又本船渠ノ位置タル海面ヲ埋立以テ之ヲ  
 建設スルノ計画ナルニ依リ仮令築造ノ工事完成スルモ將來  
 艦船ヲ入渠セシムルニ當リ破壊損傷ノ害ナキコトヲ保シ難  
 シ過般諸國旅順港船渠ノ破壊アル以テ鑒ミサレヘカラス故  
 二原計畫ヲ熟考スルニ其益スル如鮮ナクシテ其不利タル此  
 ノ如シ今之カ改正方法ヲ考案スルニ其位置ヲ別紙甲圖ニ示  
 ス朱線ノ所ニ變更シ船渠ノ構造ヲ乙圖ノ如クレ將來製造可  
 相成一万千四百噸ノ甲鐵艦ヲ入渠セシムルニ足ルモノトシ  
 而メ既定設計ノ船溜所ノ築造ヲ廢シ之ニ充テラレタル入費  
 豫算即チ堰堤出入門建設費等ハ之ヲ改正計畫ノ船渠構造費  
 二轉シ即使用相成可然ト存候依テ別紙計畫圖面及入費豫算  
 書相添呈出條也

明治廿五年五月十九日

海軍技師

恒川柳作



海軍技師

渋谷競多



土木監督署技師石黒五十二



海軍大技監佐雙左仲



海軍大臣子爵樺山資紀殿

要  
頁

佐世保鎮守府造船部船渠掘造費  
概算取調表

一 金五拾七万千貳百參拾六円四拾五錢  
 金四拾万八千參拾八円五拾貳錢 材料  
 金拾六万參千百九拾七円九拾四錢 工料  
 此譯

工事名称	数量	單位	金額	備考
礮土堀鑿	七十四 <small>坪</small>	二五〇	一九三五〇〇〇	石炭寶石類ハ官ノ所得トス
土砂堀鑿	六七九	二〇〇〇	一三五八〇〇〇	全
工事中湧水汲尽	七二	三四二	二四六二四〇	吳鎮守府建築部 バルソートル借用ノリ

全 運 轉	七二〇〇〇〇	二七六〇	一九八七二〇〇	全
渠底水留フシクレート	二五七〇〇〇	六九二〇	一七七八四四〇	混和 配量 モルター ハ〇
全 工 手 間	二五七〇〇〇	三九〇	八九九五〇	割合 砕礫 五〇
渠底基礎 フシクレート	九八五〇〇〇	五一七五〇	五〇九七三七五	混和、割合前全ニシテ 一層ノ厚一尺ヲ越ヘス 敷度ニ施行スルモノトス
全 工 手 間	九八五〇〇〇	三三〇	三二九〇五〇	
石 材 購 買	二〇〇〇〇〇〇〇	二二〇	四四〇〇〇〇〇	
全 彫 刻	八七一四六〇〇	一〇〇	八七一四六〇〇	鋭角ニシテ損所ナキヲ要
全 据 付 運 搬 共	二三八五〇〇〇	九八〇	二二七三三〇〇	接階四分ヲ越ハカラス
全 接 階 用 モ ル タ ー	四五〇〇〇	一二三五〇	五五七五〇	モルター モルトス 以テ混練ス
擁壁水留用粘土購買	九九四〇〇〇	五八四	五八〇四九六	高十尺ノ所ヲ落シ 四坪料ヲ以テ 検収スルモノトス
全 工 手 間	九九四〇〇〇	〇八四	八三四九六	假拵ヲ作り右其修ニ理込 ムモ妨ケナシ
擁壁裏積	二五九四〇〇〇	五一〇〇〇	一三二二九四〇	混和ノ 平栗石 ハ〇
全 工 手 間	二五九四〇〇〇	四九七	二二八九二一八	割合 モルター 五〇

全	組立	一	一	二〇〇〇〇〇〇〇	内地ニ於テ組立モトス
戸船材料購買	一	一	一	三〇〇〇〇〇〇〇	鋼鉄ヲ以テ造ルモトス
全鉄鎖購買	三〇〇〇〇〇〇〇	一七五〇	五二五	渠周回ニ振リ花障ヲ防クモトス	
全建設	六〇〇〇〇	六〇〇〇〇	三六〇〇〇〇	全	
全カプスタン購買	六〇〇〇	三〇〇〇〇〇	一八〇〇〇〇〇	全	
全建設	二一〇〇〇	五六五〇	一八六五〇	全	
周回建設鉄柱購買	二一〇〇〇	八五〇〇〇	一七八五〇〇〇	全	
全仕上ケ	五〇〇〇〇	五〇〇	二五〇〇〇	全	
艦船用支材	五〇〇〇〇	一〇〇〇〇	五〇〇〇〇	滞渠艦船用ニ供ス	
全組立	九五〇〇〇	四五〇	四七五〇〇	全	
艦木	九五〇〇〇	一五〇〇〇	一四二五〇〇〇	松樺桤等ヲ以テ造ルモトス	
艦船繫留用浮標	二〇〇〇	五八一二五〇	一六二二五〇	入渠艦船ノ便ニ設	
周回理築	七五四六〇〇〇	七五〇	六五九五〇	石塊雜草等混入スヘカラス	



工事施行ノ大意

堰鑿工事

一金參万九百參拾圓

堰鑿費

金壹万九千參百五拾圓

礮土 七千七百四拾坪

金壹万五千五百八拾圓

土砂 五千七百九拾坪

一 本工事ハ船渠及唧筒所地ノ堰鑿ニシテ其幅深一様ナラ  
 スト虽モ最大幅百七拾尺最大深五拾貳尺五寸ニシテ最大  
 潮面以上四尺ノ現地盤ヨリ漸次堰下々下底ニ達スル  
 モトトス而メ其土質坚硬柔軟ナルヲ以テ之ヲ二區ニ  
 分テ指定ノ埋立地ニ運搬セシム且其堰鑿施工  
 法ニ至テハ固ヨリ負擔者ノ便宜ニ拠ルモノニシテ若シ土  
 砂ノ崩落ヲ来スヲアルモ之ク為メ増費ヲナサルモノトス

原

實



湧水汲込工事

金四千四百四拾九圓六拾貳

七十日間湧水啓取費

金貳千四百六拾貳圓四拾貳

材料

金千九百八拾七圓貳拾貳

工料

一 本工事ハ漏潮雨水ヲ排除スルノ便ヲ獲ルノ費途ナレ  
ト在固ヨリ堀鑿后ニアラカレバ之ヲ詳ニスルヲ能ハス可  
謂準備費ナルモノ、如シ

漏潮雨水汲込一晝夜費額

一 蒸氣運轉手

金九拾貳圓

一 全 夫

金壹圓五拾九圓六厘

一 材料運ニ其他水汲込夫

金貳拾四圓四厘

一 石 炭

金參圓六圓九厘

一 白 絞 油

金貳圓九厘


	一 光明丹	金 壹 匁 八 匁
	一 白ペンキ	金 貳 匁 貳 匁
	一 麻	金 貳 匁 貳 匁
	一 糸屑	金 貳 匁 參 匁
	一 石炭油	金 參 匁 七 匁
	一 燭 燭	金 貳 匁
	ノ	合計 金 六 匁 八 匁
渠底水留工事		
金 壹 万 八 千 六 百 八 拾 參 匁 九 拾 匁	コンクリート	貳 百 五 拾 匁
金 壹 万 七 千 七 百 八 拾 四 匁 四 拾 匁	材料	
金 八 百 九 拾 九 匁 五 拾 匁	工料	

一 本工事ハ渠底ノ湧水ヲ遮断シ渠内面ノ湿氣ヲ豫防スル目的ニミテ層壹尺ノコンクレートヲ造成ス其混合割合ハ左ノ如シ

一 ボルトラントセメント  
一 洗 砂  
配量 一  
二

材料内訳表

種 目	数 量	単 位	全 額	備 考
ボルトラントセメント	三、七四	坪	一五、八七〇〇〇	
洗 砂	一、二八	坪	四、四九七五〇	
碎 礫	二、五七	坪	一四、六四六五〇	
工 料	二、五七	坪	八、九九五〇〇	
計			一八、六八三九〇	

一セメントハ一定不備ノモノタルベシ而メ其牽引粘カハ純  
 粹セメントニ適宜ノ清浄水ヲ加ヘ極メテ注意混和シ  
 之レヲ  ナル模型中ニ滿シ泥鑊ヲ用ヒ人カラ以テ壓迫  
 シ表面ヲ均一ナラシメ暫クシテ模型ヨリ出シ二十四時ヲ陰  
 河ノ空氣觸レシメ更ニ海中ニ浸ス一四十四時経過ス  
 ルノ後其粘カ一平方センチメートルニ參粒基支フルモノヲ  
 善良ト先做ス而メ其セメント乾燥重量ヲ秤定スルニ一  
 トル料ニ填充シ重量ニ百基ノ物ヲ以テ壓迫シ表面  
 ヲ均一ナラシメ清水ノ原位数即チ一ニ比準シ一五〇〇  
 ノ重量ヲ欠クバカラズ且ツ粉末細微ニシテ凝結遲キ  
 モノヲ撰擇スルモノトス  
 一洗砂ハ塩氣ヲ含マサル清浄ナルモノニシテ分子銳  
 角硬質タルベシ

母

子

流 算

一 礫ハ壹寸角以上或寸角以下トシ薄片及細粉  
泥亦ヲ混合セカニ良質且ツ硬堅タルモノトス

渠底基礎造成工事

全五万四千貳百貳拾四圓或拾五錢 コンクリート九百八拾五坪

全五万九百七拾參圓七拾五錢 材料

全參千貳百五拾圓五拾五錢 工料

一 本工事ハ渠底ニ施シ湧水留ノ上表ニアリテ大艦巨船  
ヲ支持スルノ基礎トシ且ツ又同時ニ浮揚カラ防制スルモノトス  
其混和ノ割合尤ノ如シ

一 ボルトラントセメント

一 川 砂

比量

一  
三

材料内訳表

種目	数量	単位	金額	備考
ポルトランドセメント	八六八八 <small>管</small>	五 <small>〇〇〇</small>	四三四〇 <small>〇〇〇</small>	
洗砂	五四 <small>坪</small>	三五 <small>〇〇</small>	一九一四 <small>五〇〇</small>	
砕礫	九八五 <small>〇〇〇</small>	五七 <small>〇〇</small>	五六一九 <small>二五〇</small>	
工料	九八五 <small>〇〇〇</small>	三三 <small>〇〇</small>	三二五〇 <small>五〇〇</small>	
計			五四二三四 <small>二五〇</small>	

石材据付工事

金八万千六百四拾五圓拾貳

金四万九千五百五拾七圓五拾貳

金参万貳千八拾七圓六拾貳

一此石材据付工事ヲ區分スレバ底部、戸當り、東西兩

材料

工料

側、頭部大法左右物降場若片妻艇接花ニ下水  
 等ノ疊枕ニシテ之カ施行ニ際シ極メテ注意ヲ加ヘ  
 石材ニ清氣ヲ灌キ水氣ヲ吸収セシメ指定ノモルリ  
 ラ敷均シ空隙之ヲキ様接際四寸以下ニ据付ルモノトス而  
 其竣ラ告グルト虽モ其モルリ凝結セカレ間ハ他ニ轉シテ  
 乾燥ヲ俟ツモノトス

一 石材ハ成ルベク全色ノ花崗石ニシテ水ヲ吸収スルニ寡ク  
 且ツ一立方ノ重量百六十磅以上ノモノヲ擇ミ永久腐化ノ  
 恐ナキモノヲ要ス

一 石材彫刻ヲ切区ニ分テ戸當リテ所ヲ上等仕上ケト為シ  
 其他ハ鑿臺中切リニテ可ナリ而シ其周圍接際ハ一寸五分通り  
 表面ト全シク彫刻スルモノトシ其他石尾ホハ荒石ノ俵ナルカ如シト  
 虽モ欠損ナカラシシ爲メ形板ヲ作り之ヲ以テ逐一検査スルヲ要ス

材料内訳表

種目	数量	単価	金額	備考
クラニット	二〇〇,〇〇〇 <sup>30</sup>	〇.二〇	四〇,〇〇〇.〇〇	
彫刻	八七,一四六 <sup>天面</sup>	〇.一〇	八,七一四.六〇	
据付運送兵	二二,八五〇 <sup>本</sup>	〇.九八	二二,三七三.〇〇	
接際用セント	一〇,八〇〇 <sup>箱</sup>	五.〇〇	五四〇,〇〇〇.〇〇	
全洗砂	四五,〇〇〇 <sup>坪</sup>	三五.〇〇	一,五七五.〇〇	
計			八一六,四五〇.〇〇	

擁壁裏面水留工事

八千六百参拾九圓九拾五錢

粘土千六百五拾六坪余購買

金五千八百四圓九拾六錢

材料

金八百参拾四圓九拾五錢

工料

計

計



流  
耳

一本工事ハ擁壁裏面ニ接シ水路ヲ遮断スルモノニテ極メテ混練シ雜草ヲ含有セザル良質タルベシ

擁壁裏積ミ工事

全長四万五千百九拾四回 平栗石積式千五百九拾四坪

全長參万五千九拾四回

材料

全長一万五千九拾四回

工料

一 本工事ハ擁壁構造ニ沿ヒ其裏面ニ施スモノニシテ平栗石ニ清水ヲ灌キ水氣ヲ吸收セシメ指定ノモルターヲ以テ疊積ス而シテ其厚幅共一定ナラズ即チ箇面ノ通リトス

ポルトランドセメント

モルター配合

洗

砂

三

材料内訳表

種目	数量	単位	金額	備考
ポルトランドセメント	二二八七九	箱	一四三九九〇〇〇	
洗砂	一四四〇	坪	五〇四〇〇〇〇	
平采石購買	二五九四〇〇〇		一三八九九〇〇〇	
工料	二五九四〇〇〇		四九七〇	
計			一四五二八六八〇	

船渠周囲埋築工事

全五千六百五拾九回五拾貳

七千五百四拾五坪 投入費

一本工事ハ擁壁裏積ニヒレテ之ニ要スル土砂ハ堀敷セシメ近

傍ニ積ミ至キ而シテ后日擁壁積ミ上ルニ随ヒ裏面ヲ埋堆スルモ

頁 頁

ノトス

船渠附属唧筒所設置工事

金貳万九千百圓

金壹万七千五百圓

金壹万千六百圓

材料

工料

一本工事ハ唧筒ノ形状ニ拠リ構造ノ變更アルニ難計ヲ以テ  
單ニ吳鎮守府船渠ノ比準ヲ表ス

潮留構造工事概算

金拾万千五百圓

潮留長さ五間

平均中 全深 於五尺壹寸五分  
或於六尺四寸

金六万四千四百六拾四圓

材料

金叁万七千五百七拾七圓五拾壹

工料

此譯

名	形	状	数	量	単	位	全	額
内空鑄鉄柱	至	外三百三 内四百三	一七〇〇〇〇	一本	一六五〇〇〇		二八、〇五〇〇〇〇	
全継手ボールド	至	廿三	二、〇四〇〇〇〇		一五〇		三〇六〇〇〇	
全建方			一七〇〇〇〇		三五〇		五九五〇〇〇	
全根塙	深	三	一七〇〇〇〇		八五〇		一四四七〇〇	
全矢板	中一尺 厚三寸三分		六七〇〇〇〇	一枚	二六五〇		一七七五五〇〇	
全拵ヒ方	矢形		六七〇〇〇〇		四〇〇		二六八〇〇	
矢板建方			六七〇〇〇〇		四五〇		三〇一五〇〇	
鐮	長	八寸四角	五〇〇〇〇〇	一本	一六		八〇〇〇	
狭梁	全	廿四尺	一七〇〇〇〇		二七五〇		四六七五〇〇	
全取付方			一七〇〇〇〇		〇三五		五九五〇	
全ボールド	長	三	一七〇〇〇〇		八〇〇		一三六〇〇〇	

足場其他材料	全堀取方	根固メ土砂	全練方	粘土購買	全建方	扣杭	全取付方	全	ボルト	全取付方	全掘ヒ方	腹起材
水汲冬共						長三十三尺		長三尺	長廿二尺至半寸			長十六尺
	一四〇〇〇〇〇〇	一四〇〇〇〇〇〇	二二〇〇〇〇〇〇	二二〇〇〇〇〇〇	二八〇〇〇〇〇〇	二八〇〇〇〇〇〇	一〇二〇〇〇〇〇	六八〇〇〇〇〇〇	三四〇〇〇〇〇〇	三五〇〇〇〇〇〇	三五〇〇〇〇〇〇	二五〇〇〇〇〇〇
	一五〇〇	六〇〇	七五〇	三五〇〇	五〇〇	八五〇	七五〇	八〇〇	一二〇〇〇	一五〇〇	〇三〇	二二一〇
	二一〇〇〇〇〇〇	八四〇〇〇〇〇	九〇〇〇〇〇〇	四二〇〇〇〇〇〇	一四〇〇〇〇〇〇	二三八〇〇〇〇〇	七六五〇〇〇〇	五四四〇〇〇〇	四〇〇八〇〇〇〇	五二五〇〇〇〇	一〇五〇〇	七七三五〇〇

浦 算



腹起	長十六尺	九〇〇〇〇〇	二二〇	一〇〇五〇〇〇
全拵方		九〇〇〇〇〇	〇〇三〇	一五〇〇〇〇
全取付方		五〇〇〇〇〇	〇四九〇	二二五〇〇〇
ボールド	長五尺至三寸	九〇〇〇〇〇	一一五〇	五七五〇〇〇
全取付		九〇〇〇〇〇	〇六九〇	三三五〇〇
粘土購買		二〇〇〇〇〇	三五〇〇	七〇〇〇〇〇
扣抗	長二十五尺	二〇〇〇〇〇	七五〇〇	一五〇〇〇〇
粘土練方		二〇〇〇〇〇	〇七九〇	一五〇〇〇〇
根固ノ土砂		一六四〇〇〇 <sup>坪</sup>	〇五〇〇	八二〇〇〇〇
全堀取方		一六四〇〇〇	一五〇〇	二四六〇〇〇
浚深		二七〇〇〇〇	五〇〇〇	一三五〇〇〇
潮雷破壊費		一〇五〇〇〇	六五〇〇	六八二五〇〇
小計				三五七八四二五〇

右ハ大意ヲ示シタルモノニシテ實施ニ臨ミ大差ナキモ多少ノ變更ナレトセズ

好

好



一 金五拾七萬千貳百叁拾六円四拾五銭

船渠建設総入費

内訳

金四拾四万六千四百九拾壹円叁銭

但建築費  
船渠築造及土木費

金叁万叁千五百円

但機械費  
ポンプ購買費

金五万円

但機械費  
戸船購買費

金四万千貳百四拾五円四拾貳銭

廿四年後稼算ヲ以テ  
購買シタルモノ

一 金五拾貳萬九千九百九拾壹円叁銭

廿五年後以降、要スル額

海軍

佐世保鎮守府新築ノ船渠計画再調査ノ事ヲ受テ曩々本年五  
 月十九日附リ以テ佐世大坂監造長谷川西技師并小官ノ四名連  
 署リ以テ該計画圖及工費豫算書相添復命書提出致置  
 々但今般中官等意見通り申實施相成ヘク者既々佐世保鎮守  
 府司令長官ノ下命相成ハズ有ク抑該船渠築造ノ圖ニ之  
 要ルル潮田工事ハ充分堅固ニシテ且大ニ注意ヲ加ハサレハ破壊ノ  
 虞モ有ク特ニ該潮止締切ノ船渠築設中一即チサツニシテ  
 年間ニ保存セザレバカクハ必要アリ依テ該メ切締長ノ内海床ノ  
 岩層ニ達スル迄水泥深キ部有テハ百メートル間ハ木杭ヲ用ヒガシテ  
 外經三百ミリ厚三十三ミリシテ長三メートルノ内空鑄鉄柱ヲ  
 三本継トシ用ユルノ計画トセリ其本數ノ如キモ五百數十本重  
 量モ亦三百噸以上ヲ要スヘク又該鉄柱タルヤ單ニ壓力ニ堪

二ハキヲ要スルニシテ主トシテ彎曲力率ニ堪ヘキモノ即チ或分  
 力彈力ヲ有スルモノヲ撰ハサルベカラザレハ其製造者ノ巧拙鑄造  
 ス(キ鉄質等)ニ注意ヲ要スルハ勿論依テ之ヲ外國ニ注文セシキ  
 然ルトキハ目下至急不用ノ品ニモ係ラズ數月間ノ後ナラズ其著  
 成トガタリ又之ヲ本邦各製造者ノ競争入札ニ付シ以テ購置セシ  
 手然ルニ本邦該製造業者中ニ之ヲ除ク外ニ總テ前記ノ  
 要件ヲ充分満セシハキ技術及他鉄撰定書ノ方ヲ有シ之ヲ  
 注文セトスルニ適當ナル資格ヲ有スル者ト認メ難ク存今般該鉄柱  
 以前文ノ理由ナルヲ以テ會計法ヲ基キ四條ニ依リ左記ノ製造者ノ内  
 隨意契約ヲ以テ買入レバク旨依世保法守備ノ下命主キリ控取  
 反ハ

隨意契約ヲ以テ鉄柱買入方ヲ命スルニ三製造所ノ名

小石川 平岡工場

石川急造船所

王子村 勝月鉄鑄所

右急見用陳之併高裁仰

明治廿五年九月九日 土木島船所 王子島

海軍大臣 青木 大 丞 官 印

海軍

決裁濟臣

次官

主事

年月日 主務

立案者

主事



浄寫 校合



發行 九月八日



中切書前集

貴府所屬、船渠築造ニ関シ別紙ノ通石黒  
技師ヲ意見書ニ出仕ルルハ大臣ヲ訓令  
可成能ク件ニ充テ之ル可ク為ル事案考為陸  
也

母

直

廿五年九月八日

佐藤保徳宮内大臣書

次官

注

耳

佐世保鎮守府所屬、紅渠計畫再調査、  
 又々、是等、本年五月十九日付、以テ佐世保大技師  
 法生恒川、西技師、並ニ山吉、四名、連署、以テ該  
 計畫圖及ニ工費、豫算書、紅渠復命書、提出  
 致、直ニ、長官、以テ、附、司、長官、一、以テ、取  
 成、一、旨、取、之、佐世保鎮守府、司、長官、一、以テ、取  
 相、成、取、取、之、以、之、抑、モ、該、紅渠、築、造、之、測、之、之  
 之、要、ス、ル、潮、留、工、事、ハ、充、分、堅、固、ニ、シ、テ、且、ツ、大、ニ  
 注、意、ヲ、加、ヘ、サ、レ、ハ、破、壞、ノ、憂、モ、且、ク、特、ニ、該、潮、留、上、端  
 切、ハ、紅、渠、築、造、役、中、即、チ、カ、リ、モ、三、ヶ、年、間、ハ、保、存  
 セ、サ、ル、一、カ、ラ、サ、ル、ハ、必、要、ア、リ、依、テ、該、締、切、係、長、ノ、内、海  
 底、ノ、岩、層、ニ、達、ス、ル、迄、水、泥、泥、十、部、分、十、百、ソ、ト

此河の本杭ヲ用スレテ外<sup>徑</sup>柱三百ミリ厚三十三ミリ  
 テ長三メートルノ内室鑄鐵柱ヲ之ニ本<sup>徑</sup>トナレ用フル  
 ノ計畫トセリ其本<sup>徑</sup>如キモ五百數十本を量モ  
 六三百噸以上ヲ要ス一ツ又シ該鐵柱ツルヤ單ニ堅  
 カニ堪一キヲ要スルノミナラヌ主トシテ彎曲力率ニ堪  
 一キモノ即チ<sup>徑</sup>分カ<sup>彈</sup>力ヲ有スルモノヲ<sup>徑</sup>ハサル一カ<sup>徑</sup>ヤ  
 一其製造者ノ切<sup>徑</sup>鑄造ス一<sup>徑</sup>鐵質等ニ注意  
 ヲ要スルハ勿<sup>徑</sup>依テ之ヲ外國ニ注文セン事然ル時  
 ハ目下至急ノ用ノ品ニモ係ラス數月間ノ後ナラテハ  
 業者致シカ<sup>徑</sup>又之ヲ本邦<sup>徑</sup>製造者ノ競争入  
 札ニ附シ以テ購買セン事然ルニ本邦<sup>徑</sup>製造者ニ此等  
 業者中ニ之ノ者ヲ得ルノ外ニ<sup>徑</sup>認テ前記ノ要件ヲ  
 充分満セシム一キ<sup>徑</sup>柱<sup>徑</sup>及地盤<sup>徑</sup>等ノ力ヲ考シ之



ヲ汪文セントスルニ適當ナル資格ヲ有スル者ト認メ  
難クニ付今般該條柱ニ前文ノ理由ナルヲ以テ會  
計法第二十四條ニ據リ左記ノ製造者ノ内ニ隨  
意契約ヲ以テ買レハク旨依世保鎮守府一階下  
命相成條樣致度條

附テ意契約ヲ以テ鐵柱買入方ヲ命スルニ三  
製造所ノ名

小石川 平岡工場

石川島 造船所

王子村 勝目鑄造所

右意見開陳ニ併テ高裁ヲ仰ク

明治二十五年九月 日

土木監務署技師石黒五十二

海軍大臣子爵仁禮景範殿

臣  
豐範

次官

閱覽濟

供覽

呈事

第三三〇號

第三局長  
船道

第二課長

造船部建設豫定地實測結果

之呈外上雲中

所轄元造船部設計書敷地測量完竣並出積

語地質部設計書官房第一三七八號強部

達二呈中施行云云敷地測量結果二有之呈

条談面商請書共添附此致上申呈也

明治三十五年八月十日

左大臣親善司官長官林清康

海軍大臣子高島仁礼日京行乾致

第三局長



第三局長



林清康

官房第一九七二号

海

軍

開鑿費調書

一、開鑿總土積計拾萬六千六百七拾五坪八合五勺  
此、金四拾萬九千五百四拾八圓七拾七錢五厘

但、土坪二廿金計四萬五拾圓  
其、土、最大、満潮、以上、土、深、五、百、二、リ

海

軍











主事



浄寫

校令



發付

七月六日



廿九年七月廿日

主務

立案者

大臣 次官



第三局長



第二課長

第二局長



第二課長



電令案

佐一三三〇ノニ(ソツ)二個所ハ試錐ヲ有キ

テヨシ(リ)ハ試錐ヲ要ス(面)面ハ一三〇〇

分ノ一ニナスベシ(委)細部便

廿九年七月六日 海軍大臣

官 一五二一号

母

直

佐世保鎮守府司令官 友

洋 軍

少指令案

佐第一三三〇号ノニ地質調査ノ件同右ノ通  
心得ツシ

第一項 同通

第二項 リレノ個所試錐ヲ要ス

但岩石等ノ為メ多日敷ヲ要スルトキハ最後  
ニ著手ニ報告ヲ後日ニ譲ルヘシ

第三項 平面圖ハ千二百分ノ一ニ調整スヘシ

明治廿五年七月六日